

輝く功績

第64回岐阜新聞大賞受賞者

半世紀以上、県内農業をやめるな。だが農協の経営指導や監査、職員教育に関わり、今「われわれ」という。食料は各農協や農業者の声を広く代弁する立場。時に厳しい言葉も放つ。だが、長く、土を耕し、水をまき、大地から恵みを受けてきた自らの経験に裏打ちされた言葉は聞いた人を納得させる。「わしの強みは現場を知ること」。栄えある賞は、農協職員だけでなく組合員、現場の代表としてもらえたと、心から思っている。

関市の農家に生まれ、戦後の食糧難の時代に育った。「明治生まれの親父からは『農年、組合長に就いた。』

岐阜県農業協同組合中央会会長

岡田 忠敏氏

農業部門

④



「地域に必要とされ、信頼される農協職員にとっても働きがいのある組織にしなければならぬ」と話す岡田忠敏会長＝岐阜市宇佐南農協会館

【おかだ・ただとし】1938年生まれ、関市出身。関高校卒。57年に県農業協同組合中央会(J A 岐阜中央会)に入り、主に監査・指導畑を歩む。参事、専務理事、理事を経て2009年6月、会長に就任。中濃農業協同組合(現めぐみの農業協同組合= J A めぐみの)では常勤監事、監事を経て07年6月から代表理事組合長。その他、全国共済農業協同組合連合会県本部運営委員会会長、県厚生農業協同組合連合会経営管理委員など要職を務める。13年に県知事表彰(産業経済功労=農業)。自宅は関市戸田。

農業者の声、広く代弁

以降、農協の実務と、農家の現場の生の声をともに知る強みがフルに発揮される。

めぐみの中では地域農業の振興や、地産地消・就農者拡大にもつな

がる直売施設「とれっ たひろば」のほか、通所介護施設やガソリンスタンドなどの設置にも力を注ぐ。管内13市町村とは災害時応援協定を結んだ。中山間地

携協定(TPP)をめぐり、長年支える自民議員にも直言するが、一方で「いくら声をかしても駄目なら意味がない。実(成果)を取ることが重要」。落としてどこを探る「策士」の顔ものぞかせる。

今後、農業を取り巻く環境はTPPに加えて、コメ生産調整の見直しと廃止、農地集積が柱となる農政・農業大改革が動き出し、一段と厳しい状況となる。だからこそ地域力」「現場力」「人間力」と自ら名付ける三つの力を重視する。

「農業には必ず地域と現場があり、そこには人がいる。それが欠けても成り立たない。農業がなくなれば、国は滅びる。まさに『農業は国の本なり』だ」